

令和6年度 秦野曾屋高等学校 第1回学校運営協議会 議事録

日時 令和6年4月22日(月) 14:30～16:00

場所 秦野曾屋高等学校 会議室

出席者(敬称略)

(委員) 反町聡之、山口正樹、梶山孝夫、佐野典文、関野浩子、原憲治、鳥海靖史、三浦義政

(事務局) 佐藤道和、沼田伊里、甲斐正、大町友子、齋藤昂良、綿引俊哉、廣重直樹、川島聡、吉崎慎一郎、堀井拓洋、高橋秀文

議事録

校長あいさつ

- 吉田末広小学校校長のみ公務のため欠席。

学校運営協議会委員及び本校職員の紹介

(自己紹介)

学校運営協議会議事録の公開について

- 学校ホームページに公開する。

学校運営協議会委員会会長互選

- 反町氏に決定した。

学校運営協議会委員会会長挨拶

- 学校が当面する様々な課題にこの委員会において、学校活性化、教員のモチベーションアップのヒントを提供できればと考えている。ご協力をお願いしたい。

秦野曾屋高等学校概要説明(校長)

- 学校運営協議会の仕組みに関する変更について。
- 学校運営協議会の委員である有識者2名(反町委員・関野委員)により、第三者評価を実施することとする。
- 学校評価部会を新設する。

- 神奈川県立学校のコミュニティ・スクールの手引に関する説明をした。
- 学校教育計画（令和6年～令和9年度）について説明した。学校のミッションについては教育委員会からのもので変更なし。学校教育目標については大きな変更なし。
- 4年間の目標と主な方策について、新学習指導要領の完全実施・ICT活用・地域連携・PTA活動等について盛り込んだ。
- 学校評価報告書については本日協議の後、県に提出する。
- 業務アシスタントの増員があり、2名体制になった。
- サポートオフィスの活用、業務サポーターを1名雇用する。
- 全県立高校普通教室へ電子黒板（ChromeOS）を導入する。

#### 反町委員より

- 学校運営協議会の役割が拡充された。これまでは第三者評価というこの会議以外で行っており、それがこの会議の役割の一部となった。協議事項として、後ほど委員の方々より意見をいただきたい。

#### 学校評価報告書実施結果について

##### 副校長より

- 3月に意見集約済みのものをまとめた。→特に意見なし

#### 学校教育計画「4年間の目標」に対する取り組みの達成度評価総括表（令和2～5年について）

- 本校ではすべての項目に対して○（60～80%）とした。

##### 反町会長より

- ◎もしくは課題意識をもった△があるとなお、良いか。

#### 学校教育目標について

##### 校長より

- 授業力向上推進重点校に指定されている。冬に県内2地区（平塚秦野地区・県西地区）にて成果発表の予定である。

#### 本会の組織について（副校長）

- 学校評価部会（全員）と地域連携部会を設置する。

## 各グループ等の取組みについての報告

### 事務長より

- 学校予算の執行に関して説明をする。
- 電力価格高騰への対応が終了する。
- 図書整備費が倍以上になる。（図書等の拡充）

### 学習支援グループより

- スタディサプリイングリッシュを導入する。英語の授業で活用していく。
- 授業力向上推進重点校の3年目の取り組みとして深い学びについて研究する。

### 生徒会支援グループより

- 入部率現時点で53%程度である。
- 部活動実績について説明する。
- 学校行事の開催予定について説明する。
- 挨拶運動について（6月参加予定）秦野市の中で小中学校統一の取り組みを紹介する。

### 生活支援グループより

- グループ名称の変更、本校生徒の特徴をふまえ、心のサポートに重点を置くグループとしていく。教育相談の実施（SC・SSW配置、サポートドックの活用）

### 進路支援グループより

- 「自立への道」冊子を配付する。
- 昨年度1～3年スタディサプリ確認テストを実施をした。  
→今年度 1年スタディサポート 2年河合塾 などの業者テストを実施する。

### 反町委員

- 「自立への道」の進路状況のように、経年で表示してもらえるとわかりやすい。

### 広報特色・情報グループより

- 第1回学校説明会は本町公民館で午前・昼・午後の3回行う。
- 学校HPについて、総合的なyoutubeの時間というバナーを設置し、HPの充実をはかっている。
- 情報についてはネットワークの混雑解消が今後の課題である。

管理運営グループより

- 防災体制、教育の充実。避難訓練・防災備品購入（ポップアップテント30基）する。
- ふれあい美化清掃については一般生徒の参加も増やしていきたい。

#### 協議事項

○：委員、●：本校関係者

令和6年度学校評価報告書（目標設定）について

- 夏季福祉体験について、社会福祉協議会としても協力していきたい。
  - ・社会の実情として保育士不足があり、潜在保育士が増えている。
  - ・保育実習についてミスマッチを防ぐ意義があり、ぜひ参加してもらいたい。
  - ・単なる体験だけで終わらず、自分の選択する職業として意識を持って貰いたい。
  - ・事業所もそういった期待をもって受け入れているだろう。
- 夏季福祉体験について、夏休みだけでなく定期的に続けられる取り組みがないか確認していきたい。生徒が書いた報告書のフィードバックもしている。以前は冊子を作っていた。
- 体験させてもらった施設に対して、感想や感謝の言葉など、事業者に直接送るといいのではないか。
- 直接送れるようにしていきたい。
- 入船自治会会長として、通学の状況やイベントについてもよく知っている。多くのイベントに生徒のみなさんに参加していただきありがたかった。特にコロナ明けて様々な行事が再開している。日程が分かり次第連絡をするのでご協力をお願いしたい。
- 公民館まつりについてもご協力いただき、さらに次年度は大きくしていきたいと考えている。学業との兼ね合いもあると思うので参加できる範囲で構わない。
- 防災教育について、近隣の住民は本校を第二次避難場所として考えている。生徒の対応についてもご考慮いただきたい。
- PTAの加入率についてどうなっているか。

- 全員加入している。
- 昨今の社会情勢にてPTA未加入について報道されている。PTA会費で補われているものについて、非会員への配付などどのようにするか問題視されている。学校においてPTAの力は必要不可欠である。
- PTAの方々により学校が支えられているという実感を持っていただく必要がある。夜のお祭りの時間の関係など、PTAや自治会の協力が不可欠。秦野曾屋高校に期待することアンケートの結果、もっとお手伝いするという意見が多かった。
- 大学で学生支援をする立場から、本学も推薦・指定校に頼り定員を埋めている。簡単に入学した学生は簡単に辞めることが多い。秦野曾屋高校から来た学生は頑張っている子が多いが、理系でも出だしでつまづく学生も多い。進路の出口として大学進学を確保したあたりから、さらに勉強をするよう伝えてほしい。
- 障がい者申請に対する支援が義務化された。生徒に対して発信し、大学に是非相談してほしい。
- 卒業生の立場から、部活動の加入率についてここ2年続けて下がっている点が気になっている。加入率が低い理由について何か調査はしているか、改善策について考えているか。
- 個々に聞いているわけではないが、アルバイトをする生徒が増えている。生徒会活動などでも、アルバイトの予定が入り協力してもらえない。委員会活動・部活動はアルバイトの二の次三の次となっている生徒も多いようで残念である。部活動紹介なども行っているが結果にはつながっていないように感じる。
- 卒業生も1万人を超え、人的ネットワークが広がっている。デコレーションボード以外の進路支援など、様々な面でサポートができるので活用してもらいたい。
- 部活動に関しては生徒会から魅力的な発信をする必要があるのではないかと。
- 子どもからの意見として、Wi-Fiについて繋がらない状況がある。機器の問題ではないか。機器の改修をしてほしい。予算先行で実質的な利益を生徒が得られないような機器の購入は避けながら検討してほしい。

- 授業力向上について、先生の授業への考え方がどのように教科指導に反映されているのかわかりづらい。
- Wi-Fi に関して、全員が使用すると混雑により問題がおこる。  
通常の授業で通信の問題が起こってはいない。何か課題があれば、県の対応になる。
- 授業評価に関して、生徒による授業評価を行っている。一人ひとりのデータもあるため、個別の対応もできる。授業観察を行っており、その中での改善も行っていく。
- 先生によって秦野曾屋高校への生徒に教え方が違うなどの、差が出ているのではないのか。
- 昔よりも良くなっているという感覚がある。より良くしていくよう努力する。
- ボランティアについて、2010年高校生ボランティアネットワーク、秦野市内4校で活動を行っていた。5年ほどで消滅。曾屋高校の先生がリーダーシップを取って行っていたが、教員や高校生が代わり終わってしまったようだ。現在はどのグループで、どの先生が対応されているのか。
- ボランティア部はないが、生徒会やその時に参加する生徒、担当の教員を中心に行っている。
- 高校生の若い力があると非常に嬉しい。秦野曾屋高校でどのようなボランティアをやっている、やりたいか、など発信してくれると嬉しい。
- トイレのポップアップテントについて、第2の防災拠点になることから地域住民が利用することから、下水のことについても検討されているか、食料備蓄について確認したい。
- 本校は避難場所ではない。しかし、地域の人は一時的に秦野曾屋高校を使用する可能性がある。生徒のための防災設備はある。現在は地域の防災拠点としての責務を負っていない。体育館だけが大雨時に避難する施設として指定されている。（末広小学校が水害対応できないため。）
- 生徒支援グループのGAPについての確認をしたい。

- 委員提案にてかなり前より行っている。サポートドックとも重複する内容があるため、現在継続について検討中である。GAP、サポートドックともにそれぞれ年2回実施する。
  
- 授業力向上推進重点校について、深い学びの解釈を教員間で統一して取り組んでほしい。進路のことで秦野曾屋高校の一般受験は10人くらい。「主体的・対話的で深い学び」をするにも基礎知識は必要である。一般受験にも対応できる知識も育んだ上で取り組んでほしい。